

言語機能を考える

言語・コミュニケーションには色々な側面の評価方法があります。その中でも「機能の評価」は極めて重要です。さまざまな分類方法がありますが、代表的なとらえ方を紹介します。

- ① 要求・依頼・勧誘・援助：「〇〇して下さい」「手伝って下さい」「〇〇欲しい」「一緒に遊ぼうよ」等
- ② 叙述・伝言：「昨日〇〇くとサッカーしたよ」「お母さんが〇〇と言ってた」等
- ③ 慣習・儀礼・敬語・ジョーク：「ごめんなさい」「ありがとう」「おはよう」等
- ④ 質問・応答・同意・拒否：「どうして〇〇したの」「わからない」「いやだ」等
- ⑤ 説明：「昨日は給食がなかったからです」「今から〇〇をして下さい」等
- ⑥ 注意喚起：「すみません」「〇〇先生」「ねえねえ」等
- ⑦ 許可・交渉・行動調整：「〇〇していいですか」「難しいなあ」「ちょっとまって下さい」等



コミュニケーションの力を伸ばすには単に語彙を増やすだけでなく、音声や補助的手段である絵カード、さまざまな機器、ゼスチャーなどを使って機能的なコミュニケーションを意識的に指導することが極めて重要です。(中本)

『いま、なんじ?』

時計の学習を始めたばかりのころ、右の時刻を「10時2分」とそのまま文字盤の数字をよんでしまう子をよく見かけます。「いま、なんじ?」生活の中でよく聞かれることばですが、時刻をよむためには、様々な要素の内容を理解しなければなりません。

- ① 数的な基礎概念
- ② 長針・短針の弁別
- ③ 文字盤の数字の配列等の時計の理解、
- ④ 5とびの数え方
- ⑤ 60進法による数概念など



これらのたくさんの情報を同時に処理しなければならず、「意味わからん!」となるのも無理のない話です。そこで時計の表す意味 ⇒ 何時かをよむ ⇒ 何分かをよむ ⇒ 5とびの練習 ⇒ 日常に使える力をつける(生活の中で時計を確認する場を多く設ける)というように、ゆっくり、じっくり段階をふんで取り組むことで理解しやすくなります。

「いま、なんじ?」がわかると、現在の時刻を知るだけでなく、予定の時刻に間に合うよう行動の見通しを持つことができます。そして将来、時間管理や公共の交通機関の利用にもつながることができます。時間や時刻の学習は、生活を豊かにし、自立するために大切な学習のひとつだといえますね。(岡本)